

Rotary Club of AMA weekly report.



2017～2018 年度
国際ロータリーテーマ

ロータリー
変化をもたらす

事務所 〒453-0015 名古屋市中村区椿町17番16号 丸元ビル
TEL (052) 451-6617 FAX (052) 451-6710 e-mail: kk01-ama@eos.ocn.ne.jp



2017～2018年度
RI 会長 イアン・ライズリー
第2760地区ガバナー 神野 重行
会長 立松 絹久
副会長 山田 尊久
幹事 田邊 正紀

例会日 毎週月曜
例会場 名鉄グランドホテル

【会報委員会】
委員長 北澤 英一・山田 広明
後藤 雅光・木下 章吉
光岡 朗・山田 幸治

2018年3月19日（雨） 第3週 第2227回例会

Song ”我等の生業”

Visitor 石川信悟君（一宮RC）

Attendance

会員	79名	欠席	10名	出席率	84.38%
----	-----	----	-----	-----	--------

President Time 山田尊久 副会長



皆さん、こんにちは。先週の例会では、旭堂鱗林さんの「藤井聡太物語」の元気な話しぶりを聞いているうちに、こちらまで何か元気になってきました。当の藤井君は、先週、2017年度の将棋界の記録四部門（対局数、勝数、勝率、連勝）で1位を独占することが決まり、最年少四冠となりました。彼の集中する姿に、本当に引き付けられます。

ところで、先週の金曜日、一宮北RCの創立55周年記念例会に招待を受け、篠田正志パスト会長といっしょに出席させていただきました。55年の歴史を積み重ねられたクラブです。若い一宮市長も元気にお祝いを述べて見えました。会員は42名ですが、5人の女性の存在が大きく、非常に活気のあるクラブのように感じました。特に50周年より始められ、今年6回目の花水木賞という表彰式が行われました。

花水木賞というのは、地域で活動されている文化・交流・まちづくりに功労のある団体に、毎年表彰状と金50万円を援助されているとのことです。こうした地域に密着した活動をされている事に、私は非常に印象づけられました。あまRCも、来年4月27日の創立50周年記念に向けて高山敏実行委員長の下に、第1回準備委員会がスタートいたしました。私達一人一人が、来年の50周年記念を有意義なものになるように、しっかりと取組んでいきたいと思います。一宮北RCのように、地域の変化に対応した活動をする事により、私達ロータリアンとして、より生き生きとした気分を味わうことが出来、毎日がきっと楽しくなる事でしょう。

今日の卓話では、児玉憲之プログラム委員長のお世話で熱田区長として地域の魅力づくりに取り組んでこられました宮木哲也様に、歴史を生かした街づくりについてお話をさせていただきます。

今日は、『地域に密着した活動でクラブが元気になる。』という話をさせていただきました。それではこれで、私の挨拶といたします。有難うございました。

Today	3月26日（第2228回）
担当	臼井幹裕 会場委員長
演題	夜間友愛例会 於：名鉄GH 11F 18:00点鐘 (お昼の例会振替)
Next Week	4月 2日（第2229回）
担当	板津和博 青少年奉仕委員長
演題	RYLAセミナー報告

Secretary Report

田邊正紀 幹事

- 1 臼井幹裕さんに国際ロータリー第2760地区2018-19年度職業奉仕委員会委員の委嘱状が参りました。



- 2 次週3月26日（月）の例会は夜間友愛例会です。お昼の例会振替となります。

ニ ヨ ボ ッ ク ス

ご投函有り難うございます

山田尊久 副会長

宮木哲也様、歴史を活かしたまちづくり、とても興味深いテーマです。

平野久美子さんの台湾世界遺産案内の本を読みました。台湾にますます引きつけられました。

田邊正紀 幹事

宮木哲也さん、本日の卓話よろしく願いいたします。来週は夜間例会です。素晴らしい音楽を用意しておりますので、是非ともご参加下さい。

東海広光君

皆様に盛り上げていただき、盛大にホールインワンコンペを開催することが出来、一生の思い出となりました。ご参加の皆様にはお気遣いもいただき、本当に有り難うございました。

それいけ精香園の神野君、美味しい立派なお肉を有り難うございました。皆様から美味しかったとお礼の言葉をいただきました。

藤田隆志君

東海君、ホールインワン記念コンペ参加させていただきました。120叩いて大変素晴らしい景品をいただきました。有り難うございます。

栗木和夫君

横井君、真っ赤な紅葉有り難う。秋が楽しみです。

板津君、いちご狩りに来てくれて有り難う。

東海君、ホールインワンコンペ、おめでとうございます。

前田重廣君

久しぶりの例会出席です。温度変化について行けませんか。

中西 巧君

東南アジア修業のために、久しぶりの例会出席となりました。申し訳ありません。

大西晃弘君

東海君、先日のホールインワンコンペでは大変お世話になり有り難うございました。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

青本道春君

東海君、ホールインワン記念コンペに誘っていただき、大変有り難うございました。楽しくゴルフが出来ました。大変大きなコンペで豪華な景品までいただき、自分がホールインワンしたような気分でした。是非もう一度お願いします。

板津和博君

東海君のホールインワンコンペにご参加の皆様、お疲れ様でした。東海君、素晴らしい豪華賞品有り難うございました。

昨日、いちご夢ファーム愛西に家族で行って来ました。子供達が美味しいと絶賛し、大喜びでした。栗木君、お土産までいただいて有り難うございました。お昼は元海で家族が皆満足、楽しい1日でした。

高山 敏君

東海君、素晴らしく盛大なホールインワン記念コンペ、おめでとうございます。伊藤ペンちゃん、池崎君、名司会でした。ご出席の皆様、お疲れ様でした。

後藤袈裟美君

横井君、紅葉有り難う。

後藤 眞君

やっとかめだなも。

家田安啓君

東海君のホールインワンコンペで、ブービー賞をいただきました。有り難うございます。

池崎晴美君

東海君、ホールインワンコンペめでとうございます。

伊藤英毅君

4月12日に金山市民会館で、東北へのチャリティーコーラスの発表会を行います。ご都合のつく方は、6時から開演しますので、聴きにきて下さい。

伊藤正征君

東海君、ホールインワンコンペ、お世話になりました。
沢山の景品、すき焼き、有り難うございました。

児玉憲之君

宮木哲也様、本日の卓話、よろしくお願いいたします。
楽しみです。

黒野晃太郎君

今年は桜が早く咲きそうです。花見に出かけましょう。

水野 眞君

トンプ返りで上京。オペラ・邦楽など楽しみました。

水谷安紀君

SAA真木君の代理です。よろしく。

田中正博君

東海君、先日は盛大なホールインワンコンペで、有り難うございました。

臼井幹裕君

東海君のホールインワン記念コンペに参加して、楽しくラウンドできました。有り難うございます。

山田幹夫君

東海君、ホールインワンコンペおめでとうございます。

横井久雄君

本年もNPO元気大治ではイモ植えより収穫までの体験希望者を募集。ロータリー枠3名確保しました。希望者は早めに！申込書は受付にあり。

合 計 65,000円



卓

話

「歴史を活かしたまちづくり…熱田の実践」

(株) エスカ 取締役施設部長

宮木 哲也氏



1. 歴史文化の街・熱田

- ・名古屋は、「行きたくない街NO1」？
- ・名古屋の歴史は京都より古い
- ・戦国武将と熱田
- ・東海道一の宿場町・「宮」と七里の渡し、魚市場、熱田湊
- ・熱田百ヶ寺
- ・熱田は名古屋ではない？
- ・意外と産業の街だった熱田

2. 熱田の魅力づくり、熱田ブランド戦略

- ・都市のブランド力とは
- ・熱田ブランド戦略・・・独自性と地域資源、「君を待つまち・熱田」
- ・「あったか・あつた・魅力発見市」
- ・「あつた宮宿会」の誕生と活動
- ・幻の「くさなぎ横丁」と「あつた朔日市」
- ・七里の渡しの復活に向けて
- ・熱田人の熱い思いが込められた映画「熱田物語」
- ・名古屋学院大学と連携したまちづくり・・・文科省のCOO事業に採択

<余談>名古屋城の話・・・本丸御殿と天守閣

「名古屋港のルーツ・熱田湊が果たした役割」

名古屋港堀川口防潮水門を溯ること約3.3km上流に、常夜灯と鐘楼そして小さな栈橋を備えた「宮の渡し公園」があります。ここがかつての熱田湊。現代の名古屋大都市圏の産業・生活を支える物流拠点である名古屋港のルーツです。本稿では、歴史的に各時代背景に応じて熱田湊と熱田の町が果たしてきた役割について述べさせていただきます。

【江戸期以前の熱田】

熱田の町は、熱田台地が半島状に張り出した、いわゆる「ソウの鼻」の先端部にあり、古くから人が住みつき、熱田神宮の門前町、漁業と海運の港町として繁栄してきました。江戸期以前に熱田の経済力に着目し、結びつきを強くしたのが、尾張で頭角を現した織田家です。織田信秀、信長父子は熱田神宮の大宮司とこの地の有力な豪族加藤一族と友好関係をもち、加藤家を通じて熱田を支配しようしました。加藤家はこの地に「羽城」という水に囲まれた拠点をもち、織田家の人質となった徳川家康（当時は竹千代）の養育を託されるほど信頼関係が築かれていました。信長亡き後、加藤家は徳川方に属し、江戸時代になっても熱田の管理権を有し、新田開発などを行いました。図書新田や現在の図書公園は当主の加藤図書助の名前に由来しています。江戸時代になり、名古屋に城下町が築かれ、熱田から城までの堀川が開削され、徳川幕府により東海道を整備されると、人・モノの流通の拠点である熱田はさらに繁栄することとなりました。

【東海道唯一の海路・・・七里の渡し】



七里の渡し・東海道中図（熱田歴史資料室蔵）

七里の渡しは、宮宿と桑名宿を結ぶ東海道唯一の海路で、その距離が七里（27.5km）であったことから、そう名付けられました。この海上ルートは、東海道の宿駅制度が設けられる以前、すでに鎌倉・室町時代から利用されており、

古くから東西を結ぶ重要な交通インフラでした。もっと古くは、壬申の乱の際に、吉野から逃れた大海人皇子（後の天武天皇）の一族が桑名から海路、尾張に渡ったという説もあります。航路は、外回りと内回りの二通りあり、満潮のときは陸地に近い内回りのルートを、干潮のときは陸地から遠い外回りのルートを使ったと記録されています。この近い方の内回りの航路の距離が七里でした。では、当時のくらいの時間を要したか、天候や潮の状況にも左右されますが、順調にいったら4時間ほどの船旅だったといわれています。幕末の外交官アーネスト・サトウの著作には、1867年に桑名から宮までの船旅は「まだ板屋根のいたってきかない帆船で午前7時半に出帆し、11時過ぎに海路の終点についた。」と記されています。この航路で使われた船は、大名が乗る御座船と呼ばれる豪華なものから、一般庶民が乗る帆掛け船までいくつかのグレードがあり、船賃はそれぞれに設定されていました。ちなみに一般の旅人は35文（19世紀末）を要しましたが、武士は無料で乗れました。これは、幕府が定めた約360名の船役に対し、船賃をとって人を運ぶことを業とする特権を与えたことに対する見返りだったといわれています。また、この舟運を確保するために、船頭、水主の保護策として、1675年に船方新田が与えられました。

このように、七里の渡しは、東海道の重要な航路でしたが、悪天候のために渡航困難な場合とか、そもそも船旅を好まない人、船旅に弱い人たちのために、脇街道としての佐屋街道を通るもう一つのルートが用意されていました。宮宿から陸路で佐屋宿へ歩き、そこから川舟で木曾川を3里下って桑名宿へ至るというルートです。こちらのほうは、婦人や子どもが多く通ったことから「姫街道」とも呼ばれました。

【東海道随一の規模の宿場町・・・宮宿】

江戸時代になって、宮宿（みやのしゅく）は東海道五十三次の41番目、桑名宿と海路で結ぶ宿場町として、また、尾張藩61万石の繁栄を支える物流拠点である港町として発展しました。七里の渡しを別名“宮の渡し”と呼ぶのは、宮（熱田）の側からの呼び名です。

宿場町としては、2つの本陣をもち、東浜御殿、西浜御殿などを中心に旅籠の数は約240件、人口は1万4千人と東海道随一の賑わいを見せていたと記録されています。また、東西交通の要衝でもあったことから、尾張藩は「熱田

奉行所」、「熱田船奉行所」を置き、熱田の支配と、人とモノの流れを監視していました。



尾張名所図会「七里渡船着・寝覚里」

(名古屋都市センター提供)



現在の七里の渡し（宮の渡し）跡の様子

尾張名所図会「七里渡船着・寝覚里」には、2つの御殿と宿場町の町並み、船着き場と多くの船、常夜灯、浜鳥居、熱田神宮へ至る参道などが描かれ、当時の繁栄が偲べれます。この絵の右側に描かれている東浜御殿は、初代藩主義直が建設を命じたもので、海と水路で囲まれた約3000坪の敷地に、四隅に櫓（やぐら）を備えた豪華な造りでした。3代將軍家光が上洛の際、帰途に宿泊したとの記録もあります。

常夜灯は、寛永2年（1625年）尾張藩家老であり犬山城主でもあった成瀬正虎が創建したもので、後に何度か建替えられています。その維持管理は近くの寺院に委ねられていました。なお、現在の七里の渡しの風景を代表する建造物として船出の時を知らせる「時の鐘」という鐘楼がありますが、江戸時代の絵図には描かれていません。それは、もともとは藩主光友の命で、熱田神宮のすぐ南側（市場町）の蔵福寺に建造されたものが焼失したため、後に宮の渡し公園を整備する際に、この地に復元されたものだからです。

らです。一方、「宮」の風景として絵図や浮世絵などに必ず描かれている浜鳥居が、現在の宮の渡し公園にないことは寂しい限りです。

さて、海路の旅は、天候に左右されるため、思いがけず長逗留する旅人も多く、旅籠だけでなく、歓楽街も発展して最盛期には3つの遊郭がありました。ここには、旅人だけでなく、名古屋の城下からも遊びに来る客が多く、そこから庶民の文化が生まれました。その一つが、江戸で発展して流行した「都都逸（どどいつ）」の元になった熱田神戸節（ごうどぶし）です。また、松尾芭蕉もよく熱田を訪れ、句会を開き、ここを拠点に名古屋、鳴海方面へ出かけるなど、名古屋が「蕉風」発祥の地となる足がかりとなりました。このように、東西の人の往来と名古屋人との交流が独特の文化を育んだといえます。

【名古屋の台所・・・浜の市】

熱田湊の古くからのもう一つの重要な機能が漁港であり、伊勢湾で獲れる海産物を中心に取り扱う市場もありました。古くは14世紀には熱田神宮の南に市が開かれていたことから、その一帯は市場町と呼ばれています。16世紀には数軒の魚問屋があり、織田信長は、清州の居城まで、ここから魚を運ばせていたという記録もあります。江戸時代になると、尾張藩が海辺を埋め立ててそこに市場を設け、8戸の間屋に営業許可を与えました。それが今の大瀬子公園のあたりで、尾張名所図会「夕上り魚市」によると、大変な賑わいだったことが伺えます。その後この市場は熱田市場として、昭和24年に中央卸売市場が日比野に開設されるまで、名古屋の台所としての役割を果たしました。なお、熱田に名古屋かまぼこを始めとする練り製品の製造業が多いのはこのためです。



尾張名所図会「夕上り魚市」（名古屋都市センター提供）

【明治以降の熱田】

明治時代に入ると、名古屋では産業都市としての都市基

盤の整備が急速に進みました。物流の面では、開府以来名古屋城下の生活を支えてきた堀川に加えて新堀川、中川運河が開削されて水上交通が盛んになる一方、鉄道、道路などの陸上交通網が整備されました。

名古屋の産業の礎になったのは、江戸時代からの木材産業であったといわれます。熱田湊からわずか800mほど上流に、尾張藩が領有する木曾の木材を集積するために造った白鳥貯木場があったことから、熱田の周辺で鉄道車両、航空機、自動車といった現代の産業が発達しました。余談ですが、昭和7年にこの地の企業が共同で製作・完成した国産初の乗用車は「アツタ号」と命名されました。

国際貿易の進展、大規模な産業集積に伴い、港の役割が重要性を増してくるにつれ、江戸時代から続く埋立によって、内陸部に位置することになった熱田港では、名古屋が近代的な産業都市として発展するための港湾機能を十分発揮することができなくなりました。この問題を解消したのが、明治40年の名古屋市への熱田町併合です。明治11年の郡区町村編成法の成立以来、熱田は、熱田村、熱田町として独立した行政体として存続していましたが、明治38年ごろから名古屋市側で熱田町の合併論が台頭し、当時の愛知県知事、名古屋市長の間の合意に沿って、熱田町側の反対を押し切る形で明治40年6月に合併が成立しました。この合併には当時、愛知県が進めていた築港事業が絡んでいたことが、その後の動きで推察されます。熱田町編入直後の7月には、千年、熱田前新田など南部臨海部を編入、10月には熱田港を名古屋港と改称し、築港によって生じた埋立地をすべて名古屋市域に編入しました。これにより名古屋市は名実ともに臨海部を有する大都市となったわけです。同時に長い伝統を有する熱田湊は、主役の座から降りることとなりました。

【七里の渡しの復活を目指して】

戦災で多くの歴史的建物や町並みを焼失し、かつての宮宿・熱田湊の面影はほとんど残っていませんが、地域の歴史を活かした街づくりが動き出しています。その一つに「七里の渡しの復活」があります。平成24年に有識者や市民団体の代表などをメンバーとする「水上交通網推進プラットフォーム」が設立され、平成25年には、住宅都市局の主催で「七里の渡し体験乗船」が行われました。その際、船内で熱田区役所主催の「熱田区街道つながり講演会」を実施したことから、私も乗船させていただきました。宮の渡しの

棧橋を出港した船は、堀川を下り名古屋港を経て伊勢湾にでて、木曽岬、長島の沖を回って揖斐川河口に入り、所要時間2時間45分で桑名の七里の渡しに到着しました。埋立により海岸線が沖合に移っているため、江戸期の航路より外を回ることになり、航海時間の半分は堀川と名古屋港で費やしました。



現在の七里の渡し跡（桑名宿）

桑名は、桑名藩11万石の城下町であり、東海道43番目の宿場町として、また伊勢参宮の起点として栄えてきた街です。木曽三川の河口部に位置し、人とモノが行きかう川と海の結節点であり、江戸後期には、本陣2軒、旅籠120軒と、宮宿に次ぐ規模の宿場として大変な賑わいをみせていました。現在、桑名の七里の渡し跡は、入り江を囲むような形で公園として整備され、伊勢の一の鳥居が立てられています。近年、旧街道を自分の足で踏破したいという人が増えており、東海道唯一の海路を船で渡りたいというニーズはかなり高いと思われます。この催しにも多数の応募があり、関東・関西から参加された方もありました。交通手段としての水上交通というには、輸送力、所要時間などに難点がありますが、歴史的な資源を生かした地域の魅力づくり、観光資源としては面白い取り組みであり、是非、継続・発展し、定期的航路としての「平成の七里の渡し」が復活することを願っております。

プロフィール

- ・1980年3月、名古屋大学大学院工学研究科前期課程修了。同年4月、建築の技術職として名古屋市役所入庁。
- ・2015年3月、熱田区長を最後に名古屋市役所を退職。同年7月、(株)エスカに入社。現在に至る。